

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

7月13日(金) 後6時半開演—生涯学習センターホール

青年劇場「あの夏の絵」公演

文化の会・美術の会会員は金が300円補填し3500円でチケット頒布
チケット希望の方は6月25日までに電話連絡を(森田、轡田、田場宛)

戦後70年が経過し、「戦争・被爆体験」が薄まる中、練馬・文化の会では被ばく体験の継承に焦点をあてた青年劇場「あの夏の絵」公演を主催することにしました。実行委員会には区内の労組、民主団体などの協力もいただき、すでにチラシ、チケットも作成し、チケット捌きもだいぶ進んでおります。文化の会でも、幹事メンバーを中心にすでに10人以上にチケット3枚1セットをお渡ししています。土建などでのチケット捌きもはじまり、会場の300席満杯の展望が開けてきました。

土建や区職労では600円～1500円の割引(組織負担)をしていますので、文化の会でも美術の会

員も含めてチケット1枚につき300円の割引を行うことにしました。チケット希望の方は6月25日までに下記担当者まで連絡下さい。

チケットの希望枚数と1枚3500円×希望人数分の振り込み用紙をお送りいたします。担当者から直接連絡が行く場合もありますのでよろしくご協力ください。

○森田彦一：090-2520-9903

○轡田英夫：090-9809-8591

○田場洋和：090-3238-9348

(田場記)

7月14日(土)「被爆者の声を受け継ぐ映画祭2018」に吉永小百合さん登場 主演する「愛と死の記録」後6時～上映でトーク 当日の午前から会場受付で整理券を発行

第12回の「被爆者の声を受け継ぐ映画祭」が7月14、15の両日、武蔵大学を会場に文化の会も後援の一員に名を連ねて行われます。初日の14日のプログラム④(午後6時～)として、吉永小百合、渡哲也主演の「愛と死の記録」が上映されますが、そのトークに吉永小百合さんが登場します。吉永さんは原爆関連の朗読などには積極的なかわりをもってきましたので、どんな発言をするか注目されます。実行委員会と宮崎信恵監督の尽力で実

現したもので、口伝えで早速大きな話題になっています。映画は午後6時から上映されますが、混乱を避けるために、実行委では会場となる大講堂で10時スタートの時点で整理券を発行することになっています。

映画・ドキュメンタリーはほかに6本上映されますが、いずれも秀作ばかり。実行委では他の作品の鑑賞も強く期待しています。

(田場記)

5月19日、2018年度(第48回)練馬・文化の会総会開かれる 活動経過、新年度方針、決算・予算、新役員を決定 大内さんの連続講座「日本の安全保障政策を考える」9月開始へ

5月19日(土)練馬区役所1902号室で第48回練馬・文化の会の総会が開かれました。

総会では、議案書(別紙)決算・予算(別紙)が承認され、今年度の新しい方針のもと、新しい役員と共に進むことが決意されました。

安倍暴走内閣の下、嘘、改ざん、データねつ造、セクハラ問題がまかり通っていますが、市民と野党の共同は、全国的にますます広がっています。

地元練馬でも、悪政に対して市民運動は広がり

勢いづいています。

こうした状況のなかで、昨年度は「新・経済連続講座」「沖縄映画祭」「江古田映画祭」などさまざまな活動を行ってきましたが、今年度も新たに大内要三さんの連続講座「日本の安全保障政策を考える」を9月からスタート。米朝会談の行方から、日本の安全保障を考えるうえでグッドタイミングだと思います。

その他、「沖縄映画祭」「江古田映画祭」も引

き続き行い、初めての試みとして青年劇場の「あの夏の絵」を共催することも決定しました。

このため総会当日に、「被ばく体験」をどう受け継ぐかというテーマで、広島基町高校出身の小川さん、聞き取り調査を行った立教大学の小倉康嗣准教授、それに武蔵大学の永田浩三教授がトークを行いました。

なお2018年度の役員は次の通りです。

○ 顧問：岡部昭

○ 共同代表：有原誠治、大内要三、小沼稜子、小岩昌子、吉田巳蔵、田場洋和

○ 事務局長：森田彦一、事務局次長：轡田英夫、立川君子

○ 幹事：浅原修一、大平真紀、小田原美保、片山むぎほ、勝山繁（新任）、田場祥子、寺崎進、中田英明、中村茂樹、荷口鉄雄、真嶋康雄、宮下智行、麗梨

(森田記)

**盛り上がった6月2日の真嶋第5回「経済講座」—「消費税と税制の歪みパート2」
第6回講座は8月25日（土）午後2時～ココネリ第2研修室西側で
「暮らしを直撃する金融の話」をテーマに実施へ**

6月2日に行われた第5回「経済」講座は「消費税と税制の歪みパート2」をテーマに、「収納済額」「還付金」「歳入組入れ額」のキーワードで解く「真の税収」、税収構造の歪み、輸出還付金、法人税還付金などを図表で解説。

参加者からは還付金などに関心が高く、また、中小企業経営者からは大企業と比べ不公平な税制などの感想も出され、税とは国家による「収奪」だという考えが大切との意見もありました。

まだまだ、税に対する正しい知識の普及が必要だと痛感しました。

(真嶋記)

**— 6月、7月は沖縄関連のイベント多彩に —
6月29、30は文化センター2階展示室とココネリ研修室で
山城博明氏の「抗う島のシュプレヒコール」写真展と講演**

文化の会が関係している「沖縄戦を考える練馬の集い」では6月29、30の両日、沖縄出身のジャーナリスト山城博明氏の写真展と講演を文化センター2階ギャラリーとココネリ研修室1で行います。

タイトルは「抗う島のシュプレヒコール」。6月、7月は沖縄関連のイベントが多彩に取り組みされており、まず6月16日に文化センター大ホールで「沖縄連帯ひろば」主催で「沖縄を救え!!」が稲嶺進・前名護市長、山城博治・沖縄平和運動センター議長らを迎えて行われます。次いで

7月1日には千代田区番町のエディカス東京で映画「OKINAWA 1965」の上映と望月衣塑子・東京新聞記者の講演、さらに7月28日からポレポレ東中野で、「標的の村」の三上智恵監督と「テロリストは僕だった」の大矢英代監督の共作による「沖縄スパイ戦史」の上映があります。

また「もあい練馬」などとの共催で準備が進められている「ねりま沖縄映画祭」の取り組みも順調で、次の7月の「会だより」ではその概要が報告できると思います。

(田場記)

- ◇ 文化の会が賛同団体となっている「横浜事件と表現の不自由展」（メイン会場はギャラリー古藤）が7月21日～29日まで行われます。7月26日（木）には武蔵大学で望月衣塑子・東京新聞記者の講演会が組まれています。
- ◇ 練馬・文化の会美術会展は7月4日（水）から8日（日）まで練馬区立美術館で行われます。7日（土）には合評会、懇親会が組まれています。
- ◇ 文化の会の7月幹事会は4日（水）です。場所：ココネリ第4研修室、時間：午後6時半。
- ◇ 2018年度の年会費（一人2000円。家族会員1000円）の徴収を始めています。未納の方には振込用紙同封いたしました。会費等のお問い合わせは、轡田（自宅3948-5129）まで。